

研究者：松浦 葵（所属：東京歯科大学 国際医療研究会）

研究題目：Indonesia, Jakarta における歯科保健医療活動

目的：

学生が主体となって企画・運営をすることにより、国際協力への積極的な参加を可能にする。また幅広い学年の学生が参加するため、歯学部生として早い段階から国際協力について興味関心を持つ契機となり、将来国際協力に携わることを志す人材を育成することを可能にする。以上をふまえ、主にアジア各国の口腔保健政策とその現状を現地大学や保健所等で学び、口腔保健活動を実際に体験することで、口腔保健分野からの国際協力を考え、実行することを目的とした。

対象および方法：

事業概要：

東京歯科大学の学部学生4名が、インドネシア国の首都ジャカルタにおいて、国立インドネシア大学と郊外の保健所（PUSKESMAS）および保健センター（POSYANDO）を訪問し、実際に歯科教育を見学した後、地域歯科保健の現場で活動を行った。最終日は日本の企業と提携しているライオン・ウィングスの工場を見学した。さらに第15次台湾スタディツアーから開始した「歯科に対する意識調査」と題したアンケートを現地の歯学部生と非歯学部生を対象に行い、またデータの比較検討のため日本の大学生に対して同様の調査を実施した。

期間：2017年3月22日（水）～3月26日（日）

訪問国：インドネシア国

訪問先：国立大学 Universitas Indonesia

PUSKESMAS CIPAYUNG DINAS KESEHATAN

POSYANDO ANGGREK,2B RW.02

P.T. Lion Wings

参加学生：松浦 葵, 伊東 紘世, 鯨井 桂子, 青木 孝仁

引率教員：眞木 吉信（東京歯科大学 国際医療研究会部長）, 山田 匡江（東京歯科大学 国際医療研究会 OG）

主催：東京歯科大学 国際医療研究会

支援：公益財団法人 富徳会

公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所

お世話になった方々：Armaasastra Bahar 教授（Universitas Indonesia）

Melissa Adiatman 先生（Universitas Indonesia）

Yosh 先生（Universitas Indonesia）

長谷川 タケシ氏（P.T. Lion Wings）

金子 タダノリ氏（P.T. Lion Wings）

結果および考察：

〈Universitas Indonesia 見学〉

3月23日午前に Universitas Indonesia を訪問した。まず、Melissa 先生から歯学部
の教育システムの説明を受けた。Universitas
Indonesia には、2つのキャンパスがあり13
の学部がある。その中の DEPOK キャンパス
は、医療系の5つの学部が設置されている。
1学年 90~110人の生徒がおり、そのうち10
~20%が男性ということだった。インドネシ
アでは、歯科医は女性が多いという。これは
インドネシアではハウスキーパーが充実して

おり、女性の社会進出がしやすいためだと考える。インドネシアには30の歯科大学（国立大学14、私立大学16）があり、日本と同様6年制の教育カリキュラムである。しかし、国家試験は日本とは異なり1年に4回あるそうだ。大学内を見学させていただくと、CBTやOSCE用の施設が充実しており、教育環境にとっても恵まれていた。また、インドネシアはバイクの利用者が多いため外傷が多い。そのため、線副子を使った実習は必ず行うということだった。インドネシアでは最近、矯正治療が流行っているようであり、矯正装置をファッションの一部として用いている人もいるようである。



Universitas Indonesia にて

〈PUSKESMAS と POSYANDO の見学〉

3月24日に保健所（PUSKESMAS）と保健センター（POSYANDO）の見学をした。車での移動中、道沿いには義歯製造所が多く見られた。インドネシアにはまだ歯科技工士の学校はなく、歯科技工士になるためには会社に就職してトレーニングを受ける。歯科技工士の国家資格がないので、病院付近には違法な技工所が多く見られるようだ。PUSKESMASでは、多くの患者が診察を待っていた。PUSKESMASには医者4人、歯医者2人、デンタルナースが1人、看護師3人がいて、3つのグループに分け交代で診療している。歯科は13時までだが、医科は24時間診療している。医科や歯科の治療を1日240件行っており、歯科の場合、1日20~25件の治療を行っている。PUSKESMASでは、まず2,000ルピア（約20円）でチケットを購入する。そのチケット代には、治療代、薬代が含まれている。インドネシアの保健所では、治療と薬の処方を行っている。ここで問題となるのは、医療保険制度である。インドネシアは日本とは違い国民皆保険制度はない。日本では、治療は保険で健診は無料であるが、インドネシアの50%の人は保険に入っていないため、健診を受けるのにもお金がかかる。Private clinicは国の保険が使えず日本円で1000円、PUSKESMASは20円。インドネシアの平均月収が2万~3万であると考えれば保健所を利用する人が多いのも理解できた。PUSKESMASは学校や周辺の地域の歯科教育も行っている。歯科だけではなく、医科の教育を2週間に1回行っているようだ。妊婦健診では妊娠中4回保健所に行くことになっており、95%の妊婦が来る。出生後40日までに母子ともに3回は健診に行かなければならない。10日に1回行くことになりこれはかなりの頻度と言える。

実際の診療室を見学すると、チェアが2台あった。小児患者が多いため、壁には様々な装飾がなされるなどの配慮があった。しかし、使用済みのバー類やワッテが無造作に置かれており、衛生環境は気になった。

POSYANDO は、保健所の下に属する保健センターのようなもので、この地域の PUSKESMAS のもとに全体で 41 存在する。これは、助産師とボランティアで成り立っている。ここでは主に妊婦、幼児といった地域住民の健康教育を行っている。今回は、身体測定と予防接種を見学した。たくさんの妊産婦や乳幼児が集まっており、野外にテーブルと秤が置かれ布の中に子供を入れて体重測定をしていた。日本では現在用いられていない秤で体重測定しており、非常に驚いた。低学年の参加者も漠然と公衆衛生について聞くだけでなく、実際に見学し、参加することができ大変貴重な経験となった。



PUSKESMAS にて



POSYANDO

〈P.T. Lion Wings 見学〉

3月25日に P.T. Lion Wings を見学した。P.T. Lion Wings は 1981 年に設立し、歯ブラシ、歯磨剤、シャンプー、台所洗剤などを製造している。広さは 125,000m² で従業員は 2,350 人いるとのことだった。インドネシア国内だけではなく、シンガポール、マレーシア、アフリカにも輸出をしている。ライオンの工場では唯一歯ブラシのハンドルと歯磨剤のチューブを自国で製造している。インドネシアは国民の約 90% がイスラム教徒である。歯磨剤は口に入れるものであることから、ハ

ラルールの申請を 2006 年から行っている。日本にいると感じることはないが、宗教上の理由によって様々なことが影響することを学んだ。また、その国によって好まれるものが異なることを学んだ。日本では、歯磨剤は発泡性の少ないものが人気だが、インドネシアでは発泡性の高い歯磨剤が好まれる。そして歯磨剤の香料、ミントの爽快感の強さ、歯ブラシのヘッドの大きさも異



P.T. Lion Wings にて

なっていた。毎日使用している歯ブラシや歯磨剤の製造過程を実際見学する機会はなかったの
で、有意義な時間を過ごすことができた。

成果発表：（予定を含めて口頭発表，学術雑誌など）

2017年5月 報告書 第17回海外スタディツアー事業報告書発行

7月 口頭発表 第28回歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）にて

10月 展示・発表 東歯祭（東京歯科大学文化祭）にて